
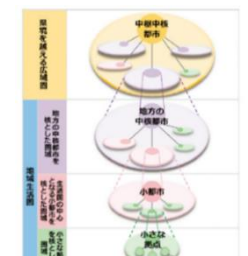


番号	ページ	行番	主な意見(※要約)	回答案・計画への反映(※要約)
1	P2	5~7	<p><第1章 1. 中国ブロックの特徴> (3) <u>脆弱な地質構造がもたらす土砂災害リスク</u></p> <p>○「<u>～土砂や洪水氾濫が発生</u>するなど自然災害に対する脆弱性を抱えている」について、「土砂災害や洪水氾濫が発生」といった<u>表現に修正</u>すること。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、<u>以下のとおり修正</u>しました。</p> <p>○<u>～土砂災害や土砂・洪水氾濫が発生</u>するなど自然災害に対する脆弱性を抱えている。</p>
2	P4 P22	2~3 37~38	<p>○<u>全体の時間軸が少しわかりにくい。</u></p>	<p>○ご指摘を踏まえ、<u>以下のとおり修正</u>しました。</p> <p><第1章 2. 中国ブロックの将来像> ○本計画と同日決定の中国圏広域地方計画では、<u>計画期間を「2050年、更にその先の長期を見据えつつ、今後概ね10年間」と</u>しており、以下4つの将来像を中国圏の目指すべき姿と位置づけている。 ※中国圏広域地方計画より転記。</p> <p><第2章2. 4つの重点目標とその実現に向けた政策の中長期的な方向性> ○<u>～計画期間は令和12(2030)年度までとし、</u>計画的に取組を推進することとする。</p>
3	P7 P31	3~19 23~25	<p>○中国地方は人口の減り方に地域差があり、中山間・島しょ部等生活条件が不利な地域で厳しくなることが想定される。</p> <p>○<u>については、中山間・島しょ部等に対してどう対応・支援していくか考えていく必要がある。</u></p>	<p><第1章 3. 社会情勢の変化> (1)①<u>中山間・島しょ部等における地域の存続危機</u></p> <p>○<u>現状を踏まえた事前防災対策や日常生活を支える生活サービス機能の確保</u>が求められていることについて記載しています。</p> <p><第3章 2. 中国ブロックの重点目標と目標達成に寄与する主要取組等> 重点目標1(小目標1-1) 生活関連サービスが持続的に提供される人口の確保に向けた都市機能等の誘導・集積</p> <p>○<u>以下のとおり記載</u>しています。</p> <p>○<u>中小都市や中山間・島しょ部等での住民の生活を維持するため、交通結節点や小さな拠点等への都市機能集積を図るとともに、公共交通の充実や交通ネットワーク整備を推進</u>する。</p>

番号	ページ	行番	主な意見(※要約)	回答案・計画への反映(※要約)
4	P10 P11	34~38 1~3	<p>○市町村には専門的な技術職、いわゆる高度な技術を持った人を配置できない状況。</p> <p>○<u>担い手の確保が難しい地域</u>が多く出てくるので、<u>既存のマネジメントの仕組みを抜本的に変えていくことが必要。</u></p> <p>○中国地方の交通では、シンクタンクの役割を担って市町村ができないことをカバーする事例もある。</p>	<p>○「<u>地域インフラ群再生戦略マネジメント(群マネ)</u>」について、以下のとおり垂直連携・水平連携の2種類を本文中に事例として表現しました。</p> <p>○～<u>群マネモデル地域である「益田市・津和野町・吉賀町」(水平連携:一つの市町村がリードし、複数の市町村で連携)、「広島県・安芸太田町・北広島町」(垂直連携:県がリードし、管内の市町村と連携)</u>などの先行事例を参考に、中国ブロック内5県との調整を実施し、相互の補完・連携を強化していく必要がある。</p>
5	P12	5~7	<p><第1章 3. 中国ブロックにおける社会情勢の変化> (3)①気候変動に伴う河川氾濫や土砂災害等の頻発・激甚化</p> <p>○<u>以下の記述がわかりにくい。</u></p> <p>○近年は気候変動の影響で、未曾有の豪雨に伴う河川の氾濫による大規模な水害や土砂災害が頻繁に発生しており、今後も同様の災害が頻発・激甚化することが懸念される。</p>	<p>○ご指摘を踏まえて以下のとおり修正しました。</p> <p>○近年は気候変動の影響で未曾有の豪雨に伴う河川の氾濫による大規模な水害や土砂災害が頻繁に発生しており、<u>今後より一層、激甚化・頻発化していくことが懸念される。</u></p>
6	P13 P63	10~12 26~30	<p>○<u>流域治水について連携協働している県管理も表現した方がよい。</u></p> <p>○<u>流域治水に関する下水道についても表現を入れた方がよい。</u></p>	<p><第1章 3. 中国ブロックにおける社会情勢の変化> (3)②<u>流域治水</u>等による防災・減災に対する取組・意識の向上</p> <p>○ご指摘を踏まえ、以下のとおり修正しました。</p> <p>○また、近年の激甚化・頻発化した水災害により<u>大河川の中上流部や中小河川</u>中山間地域である河川流域の中上流部での被災も後を絶たず、治水安全度向上が喫緊の課題となっており、早期の治水安全度向上を図るためには、河道整備だけでなく、貯留対策や流出抑制対策、まちづくりと一体となった河川整備・内水対策等が求められる。</p> <p><第3章2. 中国ブロックの重点目標と目標達成に寄与する主要取組等> 重点目標2(小目標2-6) 激甚化・頻発化し、切迫する災害に対応した「事前防災」の加速化・深化</p> <p>○以下のとおり、「概要」の欄に、直轄河川のみならず県管理河川を含む各水系で流域治水を推進していることや下水道整備を含めた流域治水を推進していることを表現した形で以下のとおり記載しています。</p> <p>○気候変動による水災害の激甚化に対応するため、<u>河川、ダム、下水道等の整備を加速し、国・自治体・企業・住民等の流域のあらゆる関係者が協働</u>により、流域全体で総合的かつ多層的な対策を実施する「流域治水」の取組を強力に推進。</p>

番号	ページ	行番	主な意見(※要約)	回答案・計画への反映(※要約)
7	P13 P15 P26	28～30 4～6 22～24	<p>○中国地方は、西日本の要衝(近畿・四国・九州の中間に位置)。 ○西日本豪雨のときは、中国地方での高速道路ネットワークなどの被災によって物資が滞ってしまった。 ○近畿・九州・四国としっかりと連携を図ること。</p>	<p><第1章 2. 社会情勢の変化> (4)②道路ネットワークの未整備が依然として存在</p> <p>○「中国ブロックは、近畿・四国・九州の各ブロックに接しており、～人流・物流の要衝となっている」と記載しています。</p> <p><第1章 2. 社会情勢の変化> (3)③切迫する巨大地震等に備えた隣接ブロックとの災害対応の連携強化</p> <p>○「四国や近畿、九州など隣接ブロックへの物資支援など、バックアップの役割が期待されている。」こと等、災害時における隣接ブロックとの連携について記載しています。</p> <p><第2章 3. インフラ政策の基軸となるインフラマネジメント> 【方針2】施策・事業間や地域間の連携</p> <p>○「社会資本整備にあたっては、～隣接する近畿、四国、九州ブロックとの連携を図る」と記載しています。</p>
8	P14	1～4	<p>○南海トラフ地震の被害想定の見直しが全国的に進んでいる。 ○全国的あるいは中国地方関係で必要に応じて情報を更新すること。 ○特に最大死者数などの数字が変わる可能性があるのではないか。</p>	<p>第1章 3. 社会情勢の変化 (3)③切迫する巨大地震等に備えた隣接ブロックとの災害対応の連携強化</p> <p>○「南海トラフ巨大地震最大クラス地震における被害想定について【定量的な被害量(都府県別の被害)】(令和7年3月 中央防災会議 防災対策実行会議 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ)を基に被害想定を記載しており、本文中の図18は現時点での最新の情報となっています。</p>
9	P23 P24	8～28 1～19	<p><第2章 2. 4つの重点目標とその実現に向けた政策の中長期的な方向性></p> <p>○「中国圏の視点」に記載されている4層構造の説明がイメージしにくい。 ○もう少しわかりやすい表現にすること。</p>	<p>○ご指摘を踏まえて、中国圏広域地方計画で用いているイメージ図を追記しました。</p>  

番号	ページ	行番	主な意見(※要約)	回答案・計画への反映(※要約)
10	P26 P27 P92	34～40 1～14 26～29	<p>○インフラメンテナンス国民会議ちゅうごくにおける多様な関係者との情報共有だけでなく、個別プロジェクトごとの直接的な連携も必要。</p> <p>○また、国と県、市町村だけでなく、<u>民間事業者との連携によりインフラメンテナンス等の効率化に繋がると考えるので書き込むこと。</u></p>	<p><第2章 3. インフラ政策の基軸となるインフラマネジメント> 方針3 官民等の連携・協働</p> <p>○<u>官民等の連携・協働について以下の点について記載</u>しています。 ・社会課題の解決と成長型経済の実現に向けたPPP/PFIの推進 ・産官学金労言など多様な主体の連携の強化 ・人材育成、多様な契約方式の活用を進め、優良な取組の水平展開等を通じて、地元企業の創意工夫が発揮されやすい環境整備</p> <p><第4章 5. 関係機関等との推進体制・連携の強化> ○<u>関係機関等との推進体制・連携の強化について記載</u>しています。</p>
11	P27	16～38	<p>○広島市豪雨災害伝承館のように、<u>被災からの教訓を語り継いだり、インフラ整備が進む中で地域の賑わいを創出していけるような、地域住民等あらゆる方々が参画して繋がっていけるような場が今後も増えてほしい。</u></p>	<p><第2章 3. インフラ政策の基軸となるインフラマネジメント> 方針4 地域の住民など多様な関係者の参画</p> <p>○地域の住民など、多様な主体の参画を得つつ進めることを通じて、受け手のニーズに合わせたものとするが必要であり、「流域治水」や「活躍人口」について記載しています。</p> <p>○「活躍人口」については、「13番」回答案のとおり、各地域や被災地の賑わい創出にあたって必要な人材であるという観点で記載しています。</p>
12	P27	31～35	<p>○<u>活躍人口が活躍できるためにも、上手く繋がるのが大事であるということ</u>を表現すること。</p>	<p><第2章 3. インフラ政策の基軸となるインフラマネジメント> 【方針4】地域の住民など多様な関係者の参画</p> <p>○ご指摘を踏まえ、以下のとおり修正しました。（「番号5」に類似） 【修正前】～可能な範囲でそれぞれが役割を持ち、地域と連携しながら地域課題解決を進める「活躍人口」の創出を目指すために支援を行う。</p> <p>【修正後】～地域住民や地域と関わり合いを持つ主体と連携しながら、これまで以上に地域に貢献していただける人材(=「活躍人口」)を中国地方の内外から確保していくことが求められる。この「活躍人口」の創出に向けた支援を通じて、これまでの地域のあらゆるつながりを再構築・強化していく必要がある。</p>

番号	ページ	行番	主な意見(※要約)	回答案・計画への反映(※要約)
13	P27	31～35	<p><第2章 3. インフラ政策の基軸となるインフラマネジメント> 【方針4】地域の住民など多様な関係者の参画</p> <p>○「～可能な範囲でそれぞれが役割を持ち、地域と連携しながら地域課題解決を進める「活躍人口」の創出を目指すために支援を行う。」とあるが、「<u>活躍人口</u>が地域外の人、関係人口のみに捉えられてしまうので、書きぶりの検討をすること。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ以下のとおり修正しました。</p> <p>○～地域住民や地域と関わり合いを持つ主体と連携しながら、これまで以上に地域づくりに関わる人材(=活躍人口)を中国ブロックの内外から確保していくことが求められる。</p>
14	P28	22～36	<p>○社会資本整備が投資なのか費用なのか、より意味を利かせて記載する必要</p> <p>○社会基盤の重要性をしっかりと伝え、実感できるところまで伝えられる内容になるとよい。</p>	<p><第2章 4. 持続可能で質の高い社会資本整備を担保する措置> (1)戦略的・計画的な社会資本整備のための安定的・持続的な公共投資</p> <p>○民間投資を誘発する観点からも、<u>安定的・持続的な公共投資の見通しを明らかにすることの重要性を記載</u>しています。</p> <p>○その「投資」がもたらすストック効果については、「19番」回答案のとおり。</p>
15	P75	P6～8	<p>○昨今、大きく話題になったことの一つがクマだと思ふ。</p> <p>○例えば<u>自然との共存、山の手入れなど、そういったところも一言あってもよいのではないか</u>と思ふ。</p>	<p>第3章 2. 中国ブロックの重点目標と目標達成に寄与する主要取組等重点目標3 : インフラ分野が先導するグリーン社会の実現</p> <p>○ご意見を踏まえ、「目指すべき姿」について以下のとおり修正しました。</p> <p><文章修正案> ○瀬戸内海の多島美や中国山地等の中国ブロックの美しく豊かな自然環境の保全・再生を図るとともに、ネイチャーポジティブに向けた30by30目標の達成等による健全な生態系の保全・再生、新たな里山・里海づくり、地域資源の循環の向上、最適な国土の利用・管理を目指す。</p>
16	P75	P6～8	<p>○重点目標3の概要文で「里山里海づくり」ということで使われているが、可能であれば、「<u>多島美</u>」「<u>多島海</u>」等のキーワードが入ると、もう少し「<u>陸上と海を一体的に考えている</u>」というニュアンスが中国ブロックとしてアピールする面になる。</p>	<p>○「番号15」の回答案のとおり。</p>

番号	ページ	行番	主な意見(※要約)	回答案・計画への反映(※要約)
17	P78	42～44	○かつて経験したことのない被害に「牡蠣」もあって中国地方にとっては、特別大きな問題のように思うので、 <u>牡蠣についても加筆いただきたい。</u>	○ご意見を踏まえ、 <u>社会資本整備に関連した表現として以下のとおり修正しました。</u> <文章修正案> ○藻場・干潟及び生物共生型港湾構造物を「ブルーインフラ」と位置付け、その保全・再生・創出に向けた取組を推進し、 <u>生物多様性の向上を図るとともに、「広島湾再生行動計画」の推進等により、豊かな海の実現を目指す。</u>
18	P80	26～29	第3章 2. 中国ブロックの重点目標と目標達成に寄与する主要取組等重点目標3(小目標3-9) 港湾を核とする広域的な <u>資源循環ネットワーク</u> の強化 ○「 <u>資源循環</u> 」が何を意味するのか分かりづらい。	○ご意見を踏まえ、以下のとおり修正しました。 ○港湾を核とする物流システムを構築し、 <u>広域的な資源循環(廃棄物となるものの中から、再利用や再生が可能で、資源として有効活用できる有用なもの)</u> を促進するため、物流機能や高度なリサイクル技術を有する産業が集積する港湾において、必要となる整備を推進する。 ○また、【資料3】総括概要資料には、 <u>資源循環ネットワークのイメージ図</u> を示しています。
19	P12～P17 P93～		○ <u>インフラ整備により地域が賑わうことが伝わるような内容が良い。</u>	<第1章 2. 社会情勢の変化> ○ご意見を踏まえ、 <u>各事業について以下のとおりストック効果事例を明記【河川】H30.7豪雨時の整備効果や被災後の治水事業推進 等【道路】山陰道や岡山・広島都市圏における道路ネットワークの形成推進 等【港湾】徳山下松港等における船舶大型化推進 等【建政】岡山駅・広島駅を中心とした再開発事業 等</u> ○本文巻末では、各章目標毎に「 <u>期待されるストック効果</u> 」を整理・提示しています。 ○また、【資料3】に記載のとおり <u>概要資料にも期待されるストック効果も示しています。</u>
20	-	-	○概要やパンフレットは、 <u>明るい未来のために社会資本整備を進めていく</u> というようなこの計画の狙いを強調して作成した方がよい。	○概要版について、 <u>各重点目標の目指すべき姿を示すなど、目標や取組内容を示す資料となるよう作成しました。</u>
21	-	-	○本文中は <u>専門用語が多い。</u> ○もう少し砕いた表現が使われてもよいのではないかと。	○ご指摘を踏まえ、 <u>巻末に用語解説を掲載しました。</u> ※計画書の該当箇所には黄色網掛けをしております。 ○概要版についても【番号13】の回答案のとおり作成。